



城内側からみた一の木戸石塁



一の木戸石塁の水門



二の木戸石塁

### ■谷部の石塁（水門）

石塁は三つありますが、最も大きいのが一の木戸です。

一の木戸は谷を横断する城外側の石垣の長さは24m、現存の高さは2.4mあります。この石垣と背中合わせに城内側にも石垣があり、石塁の幅は6.2mとなります。石垣の石材はやはり地山の石ですが、列石材より大きく長さ1mを超えるものもあります。石塁の基底には通水溝が貫いています。また、石垣と石垣の間には石材が充填され、そこからも水が抜けるように工夫されています。石塁の上にはさらに土塁が載っていたようで、城壁高としては5mほどに復元できます。石塁も発掘後は埋め戻しを行っています。一の木戸は見学が可能です。瀬戸町観音寺から案内板に従って谷筋の道を登っていくと、たどり着けます。



城跡の位置

発行：平成21年3月31日  
〒700-8544  
岡山市北区大供1-1-1  
岡山市教育委員会(文化財課)  
TEL 086-803-1611

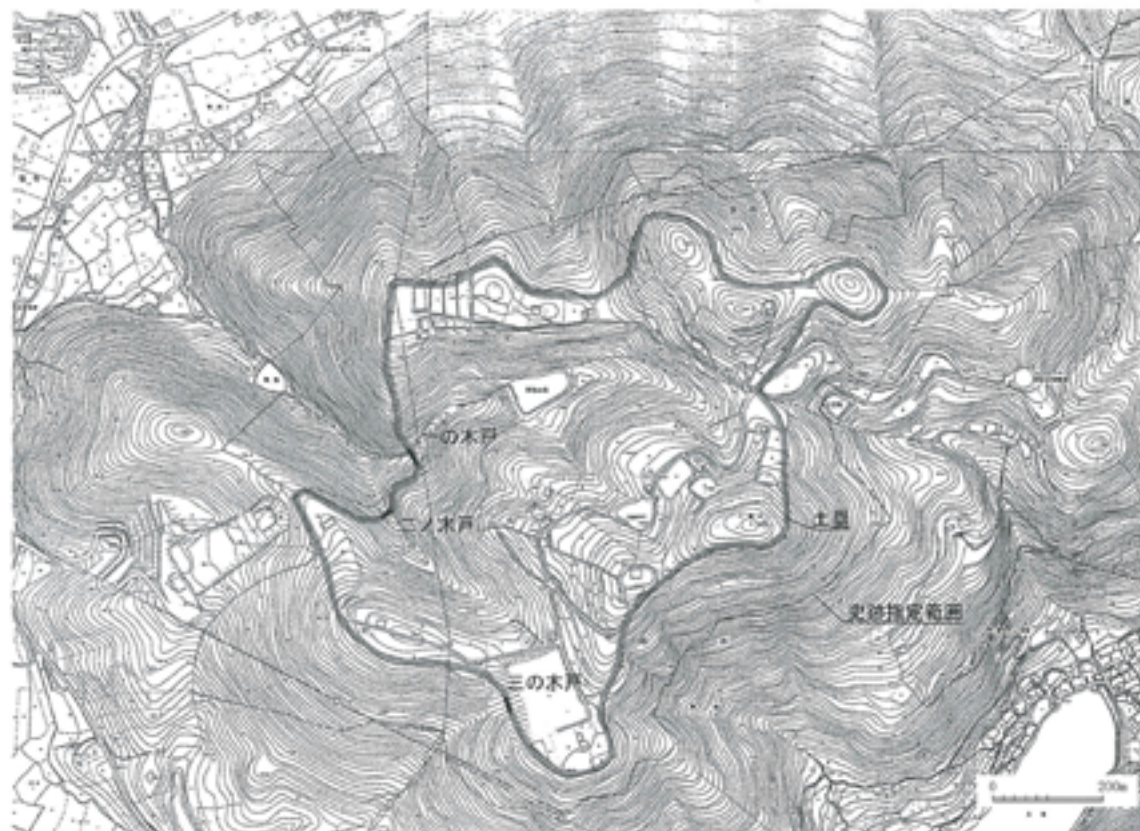
## 国指定史跡

# おおめぐりこめぐりさんじょうあと 大廻小廻山城跡



一の木戸石塁[発掘調査時]

岡山市教育委員会



## ■遺跡の概要

岡山市北東部の東区草ヶ部・同瀬戸町観音寺・同瀬戸町笹岡にかけてあります。城内の面積が38.6ha(指定地面積76.0ha)にも及ぶ広大な遺跡です。その僅かな部分についてですが、昭和59年度から昭和63年度にかけて発掘調査が行われ、平成17年3月には総社市の鬼ノ城と並ぶ吉備地方の古代山城跡として国の史跡に指定されました。

日本書紀などの史書には記載がなく、いつ、誰が、何のために造ったかは未確定ですが、出土遺物などから7世紀(飛鳥時代)のものである可能性が強まっています。また、

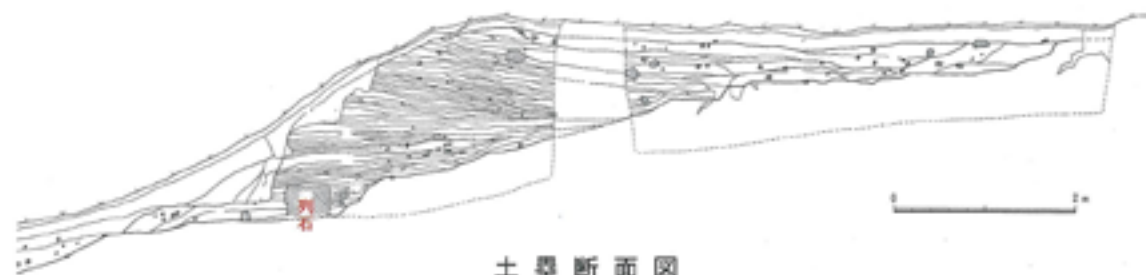
唐や新羅といった大陸軍の侵攻に備えた城であるという説や、近畿地方にあった政権が地域支配を徹底するために設けた軍政上の施設との説があります。

城跡のある丘は古代の備前地域の要の位置にあります。標高199mの小廻山を最高所としますが、上部はなだらかです。城壁線はその高原状の地形を縁取るように、3.2kmにわたって取り巻いています。城壁線の基本は高さ1.5～3.0mの土塁で、その外裾には列石が組み込まれています。また、古くから「木戸」と呼ばれている個所では、城壁が石垣造りで、谷水を城外に円滑に排水するための水門が設けられています。こうした造りは大まかには朝鮮半島の古代山城と共通し、当時の国際交流を物語っています。

岡山市教育委員会では、史跡公園としての整備を行うために、まず土地の公有化を行っています。



北からみた城跡のある丘陵



土塁断面図



折れと直線で続く土塁



土塁裾の列石



列石と版築層



列石の折れ部

## ■土塁と列石

土塁の多くの部分は、断面が段状で城外側だけに壁を持っています。盛土は土砂を少し入れては杵で撞くことを繰り返した結果、非常に固くしまっていて、発掘調査で断ち割ると縞模様が見えます。こうした盛土法は大陸由来の技術で、版築(はんちく)と呼ばれています。

土塁の裾には列石が緻密に組み込まれていて、折れと直線をなして続いていきます。付近で取れる石材を多少加工して形を整え、一段一列に寝かせ置いています。列石は他の古代山城の土塁にも一般的にみられますが、当城跡のものは石材が小さく、版築層に埋め込まれてしまって壁面に覗かないのが特徴です。

なお、ここに掲げた写真は発掘調査時のもので、現在は埋め戻されて、見学する事はできません。